

同じ目標に向かって—みんなで力をあわせよう

広島、長崎、ビキニ環礁、チェルノブイリ、福島—人類にとって危険な放射線の教訓は、あと何回私たちが待ち受けているのでしょうか。リトアニアは2009年までは原発保有国のリストに含まれていましたが、その年、イグナリナ原発が26年間の稼働を経たのち閉鎖されました。これは、2004年リトアニアがNATOと欧州連合に加盟したことによるものでした。リトアニア政府の変化に伴って国民の原発に対する姿勢も変わっていき、ついに2012年の国民投票で、リトアニア国民は「核エネルギーにNO」を宣言しました。

リトアニアはエネルギー資源での自立を目指して別の道を選びました。2014年2月、インディペンデンスFSRUと呼ばれる浮体式の液化天然ガス貯蔵基地が、クライペダ港に到着しました。現在、エネルギー消費量の36%は石油とその関連製品に、30%は天然ガス、19%は再生エネルギー資源、15%はその他に由来しています。

チェルノブイリ原発事故後、汚染除去作業にリトアニアから7212人の若者が動員され被ばくしました。リトアニア国民は、1945年の広島、長崎の悲劇を忘れることはありません。

原水協から寄贈された30枚の写真と絵画のパネル展示は、再び、日本の人々が経験させられた恐怖を私たちに思い起こさせる機会を与えてくれました。ビリニウス医科大学図書館とエレクトレナイ市立図書館で開かれた原爆展は、大きな反響を呼びました。原爆展は駐リトアニア日本大使も参加して開会しました。ビリニウスのレントバリス中等学校で開かれた原爆展では、生徒たちは貴重な歴史の教訓を学びました。核兵器の破壊的な特徴や原子力発電所の「原子力の平和利用」の危険についても討論しました。また原爆展は、リトアニア消防局の消防士訓練計画にも含まれました。

リトアニア国会と政府施設内で開かれた原爆展は、国会議員、政府職員、外国からの訪問者に、核兵器が引き起こす影響を、理論だけでなく実際にその目で見て知る機会を与えてくれました。リトアニア政府は原水協のみなさんが行ってこられた活動を高く評価し、原爆展示物の寄贈に対して感謝状を送りました。私たちは、恐ろしい歴史の教訓を目に見える形で知らせてくださった原水協のみなさんに深く感謝を申し上げます。これからもすべての活動が大きな成功をおさめられるよう望みます。

つい最近、リトアニアの大手テレビ局であるLNK/自由独立チャンネルが、リトアニア国境から20キロの地点に建設された、ベラルーシのアストラベツ原発についての番組を放映しました。私はこの番組に出演して、目に見える資料として原爆展の写真を示しながら発言しました。リトアニアの全国民にとっては、これらすべてをテレビの画面で見る機会となりました。

私たちは、みなさんの活動から学び、世界中の全ての勢力と力を合わせて、核兵器の完全禁止を達成するつもりです。